Hello Everyone!

国際交流員（CIR）の迷言コーナー

うん、なんでしょう

ロジャー・マシューズ

みなさん、こんにちは！現在私はオーストラリアにおります！雲南市に来てから、まだ一度も帰った事がないので、少し家族に会いに、そして、オーストラリアの学校と政府の様子を研究するために帰っています。雲南市に帰ってきたら、オーストラリアのことをいっぱい伝えたいと思っています。

さて、間もなく日本では新学期が始まりますが、オーストラリアでは、夏休みが終わってから、新学期がはじまります。逆ですね！そして12月に学生は卒業します。ですから、お正月（日本と反対で夏）が終わってから夏休みを過ごし、新学期の準備をします。そして、大学の入学試験を受けます。日本と同じぐらい大変難しいです！

またこの時期、オーストラリアでは、イースター（復活祭）があります。イースターの間に祝日が結構あるので、日本のゴールデンウィークと似ています。この期間に親戚を訪ねることが多く、交通渋滞もあるので、日本のお盆とも似ているようにも思います。

日本の習慣とオーストラリアの習慣を比べると、季節や宗教などの違いもありますが、同じ部分もたくさんあります。みなさんもぜひ、ゴールデンウィークあたりオーストラリアに来て下さいね！

大東国際文化交流協会（黒田直幸会長）が中心となり、2月12日から3月11日までの1か月間、早稲田大学の留学生9人が大東町内で、一方、加茂町地域づくり委員会・Feel 21が主催して、2月21日から27日の間、大阪大学の留学生5名が加茂町内で、それぞれホームステイによる生活体験や文化交流を行いました。

座禅や陶芸など日本の文化体験をはじめ、日本の料理を作ったり、茶道体験をしたり、学校訪問をしたりと盛りだくさんの「日本の田舎暮らし」を通じて、地元の住民や子どもたちと国際交流を深めました。

木次町発

わがまちの巧（たく）み

このコーナーでは、地域に根付いている伝統工芸や地域ならではの活動をされているみなさんを紹介していきます。

「飾面づくり」

今月は、木次町山方にお住まいで、手すき和紙を使った飾面製作をされている高尾良宣（たかおよしのぶ）さんを紹介します。

高尾さんは、広島県北広島町からUターンし、仕事の傍ら、鬼や天狗、般若、狐面のほか、スサノオノミコトやオロチ面など様々な飾面づくりを手がけています。

飾面づくりの流れ

高尾さんの面づくりの作業工程は、大きく分けると「型抜（かたぬき）」、「紙貼（かみはり）」、「胡紛（こふん）かけ」、「色付（いろづ）け」の4つの工程に分かれます。

型抜（かたぬき）

石こうで作った型枠の中に、焼き物用の粘土を入れ、乾燥させた後、面の型を抜き取ります。

紙貼（かみはり）

型抜された面の元型の上に、濡れた手すき和紙を何枚も重ねていき、一昼夜乾燥させます。

胡紛（こふん）かけ

乾きあがった元型の粘土を壊し、和紙面だけにします。

その面の上に胡紛（こふん）（にかわや貝の粉末）を幾重にも塗っていきます。

色付（いろづ）け

にかわの入った染料を使い、彩色していきます。また、筆に使う馬の毛を使い、面の毛髪やひげを取り付けていきます。

飾面の魅力

高尾さんは「飾面の魅力は、微妙な表情にあると思います。鬼の面ならいかに恐ろしく見せるか、オロチ面なら、いかに迫力を出すかなど、面の表情が重要であり、魅力だと思います。和紙面は、木彫り面と違い軽いので、手軽に子どもたちが付けて楽しめるお面も作っていきたい」と話していました。

手づくりだから感じるぬくもりのある飾面。自宅横の作業場には、「命」の吹き込まれた飾面が数多く並んでいました。

高尾さんの作品は、「おろち湯ったり館」や道の駅「桜の里きすき」でも展示・販売されています。

◆◆◆

飾面づくりに興味がある方、製作してみたい方は高尾さん（☎0854・42・4542）まで